

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

社会教育士養成は、 地域人口を増やす!?

松田 道雄

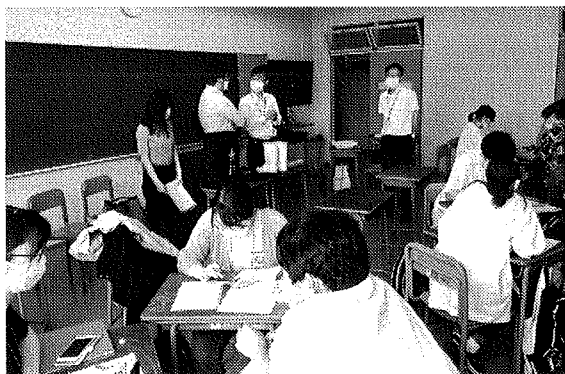


写真2 小グループになり、グループごとに、弘進ゴム株式会社
に提案したいアイデアを考える (同)。



写真1 弘進ゴム株式会社社員の方が、商品見本を示しながら、
会社の事業を学生に紹介する (2022年6月30日、尚綱学院大学)。

提案：社会教育主事・社会教育
士養成課程の授業において、大
学生の進路や地域意識の変化に
も着目してみましょう。

筆者(松田)が9月号のこの原稿を書いているのは、猛暑が続いている7月初めです。きつと、この原稿を読んでくださる読者の皆さんは、「そう言えば、今年の梅雨明けは早く暑かったねえ」と振り返ることでしょう。

今回の筆者のタイトルは、現在、大学での授業から思い浮かんだことです。今年度、筆者の2年生のゼミでは、昨年度から宮城県仙台地方振興事務所担当者と打ち合わせをしてきた、若い女性が首都圏に流出することを防ぐための「女性活躍！仕事のやりがい発見プロジェクト」という取り組みを試みています。

多くの地方では、都道府県レベルでも、町内会レベルでも、人口減少に伴う様々な問題が大きな地域課題になっているかと思いま

す。皆さんのところはいかがでしょうか？ 東北6県もすべてそうですし、宮城県も課題です。東北の地方中枢都市である仙台市には東北各地から大学生が集まっていますが仙台に定着せず、首都圏に流出する割合が高くなっていることが宮城県・仙台市の地域課題だと自治体職員は言います。

昨年度、宮城県仙台地方振興事務所の担当者が、この課題に対して地域課題解決型事業をどのように立案したらいいか、筆者の研究室に相談にいられました。その時、筆者は次のような会話をしました。

松田「女子大生を対象にした事業を考えるのに、40代50代の男性が役所のデスクの上で思索しても、ピントのずれた事業をつくるのがオチですよ。」

担当者「全くその通りです。」
松田「女子大生のことは当事者に聞くのが一番でしょうから、県職員が勝手に事業を考えるのではなく、当事者世代といっしょに問題

解決の道を探っていくような事業計画を考えてはどうですか？」

その後、「3年間の事業予算がとれました」と連絡をもらい、その1年目の事業が筆者のゼミで、「学生の話をついしょに聞きながら事業展開を考えていく」取り組みが始まりました。このゼミに受講希望した前期の学生は、男子も含めて9名です。

「もつと、高校までの段階で、地域に愛着を持てるような取り組みがあればいい」「地元でどんな企業があるのかわからない」など、学生の率直な意見を聞き、試しに次のような「実験」を行ってみることにしました。

それは、学生が知らなかった地元企業をHPで調べ、社員の方に直接話を聞く場面も設けながら、その企業へのアイデア提案を学生なりに考えてみることを通して、その企業への愛着や関心が深まるかどうか試してみようという「実験」です(写真1・2)。そして、この前後にアンケートをとり、地域

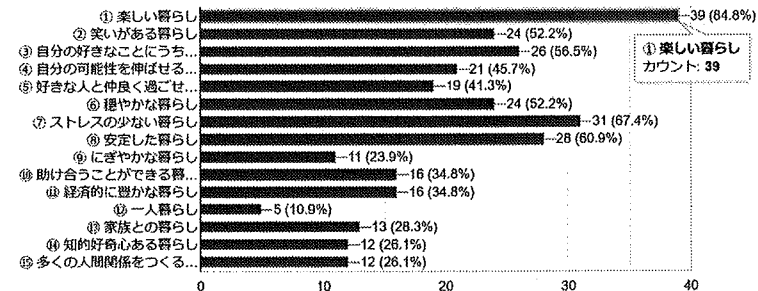
への関心や就業意識がどのように変化したか、しないかを探ることにしたのです。まだ、授業途中なので、その結果は3週間後です。ただ、この試みから派生して、興味深いことが思い浮かびました。このアンケート(グループアンケート)を、筆者が担当してい

る前期の社会教育主事・社会教育士養成課程の授業(社会教育計画論、生涯学習支援論)や3・4年のゼミ(ゼミ生のほとんどが同養成課程受講者)でもとってみました。その結果一部が、グラフ1と4です。回答者は46人。学生は2つの大学生。男女別は、男子28人、女子18人。学年別は、4年生9人、3年生32人、2年生5人です。

けを考えては、問題の解決にはなかなかつながらないようにも思えます。実際に、グラフ2を見ると、就職よりもどこに住むかを優先して考える割合がやや多くなっています。さらに、グラフ3を見ると、地元志向・仙台志向が高く、このグラフを見る限りでは、どうも女

1 あなたは、現在、卒業後、どのような暮らしをしたいと考えますか？ 以下からあてはまる要素にすべてチェックしてください。暮らしとは、仕事や住むことや生き方の総合とらえてください。

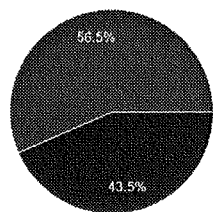
46件の回答



グラフ1
願う場合、単に就職のことだけもらいたいと自治体担当者が感じるかどうかと言えます。その意味で、地元に住んで

2 あなたは、現在、卒業後の進路や暮らしについて考える際に、就職と住まい(地域)のどちらを優先して考えますか(どちらかと言えば)？

46件の回答



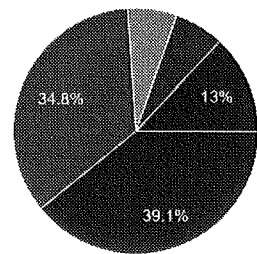
グラフ2

子大生の首都圏流出問題は考えられません。

大学生全体としての統計結果では、女子大生の首都圏流出が課題

5 あなたは、現在、卒業後について、どこに住みたいと考えていますか？

46件の回答



- 地元に住みたい (地元が仙台以外の地域)
- 仙台に住みたい
- 東京圏に住みたい
- それ以外に住みたい
- 考えていない

グラフ3

1 社会教育主事、社会教育士養成課程の一つであるこの授業を受けて、授業を受ける前と現在では、以下のそれぞれの項目について、どのような変化があると自分で感じますか？

	大いにある	ある	ない
1 地元に住みたいと思うようになった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 地元への愛着が深まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 社会的に活躍したいと思うようになった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 社会全体への関心が深まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 自分の人生や進路をより考えるようになった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

と示され、こうして宮城県仙台地方振興事務所の相談を受け、筆者のゼミでも解決策を探る一助として取り組み始めているところですが、社会教育主事・社会教育士資格課程を受講している筆者の大学生には、どうもこの課題があてはまらない、もつと言え、すでに解決されている？ というようにも思えます。考えてみれば、地域住民の学びを支援するという社会教育に関心ある学生は、そもそも

が地域志向、地元志向でもあるからでしょう。

社会教育士という新たな称号が設けられてから、その称号を取得するために、社会教育主事養成課程を受講する大学生が増えているという話を聞きます。若者の地元への定着を望む地元自治体職員にとっては、多くの大学生が社会教育士という称号に関心を持ち、社会教育主事・社会教育士養成課程を受講してもらうことは、その課題解決への一つの道筋になると言うこともできるかもしれません。

グラフ4

社会教育主事・社会教育士養成課程の科目では、地域の公民館のことを学んだり、地域住民の学びを通じた地域づくりを学んだり、多様な地域学校協働活動の姿を学んだりします。とりあえず社会教育士という称号をとっておきたいという軽い動機で受講した大学生も、そのような授業を通して、

あらためて地域生活に関心を深め、自身の就職や卒業後の住まいにも影響を与えるかもしれません。

そこで、筆者も、前期「社会教育計画論」(尚絅学院大学)、「生涯学習支援論」(東北学院大学非常勤)の授業後に、グラフ4(ここには5項目しか示していませんが、実際には10項目まで用意しました)のアンケートをとってみたいと思います。興味ある結果が出ましたら、皆さんにも報告します。現在、授業では、仙台市の公民館運営審議会のHPから、会議資料を教材として市民センター事業の成果を読み取り、大学生なりのアイデアも考えて提案書にしてみる作業をしているところです。

(まつだ・みちお 地域に暮らし地域を元気にする社会教育士の活躍を応援します！)
学院大学教授・宮城県名取市連絡先：
m_matsuda@shokei.ac.jp